
石川県立美術館だより

平成19年3月1日発行 第281号



彩釉鉢 三代徳田八十吉
伝統九谷焼工芸展30年の精華

特集

天神画像と文房具

3月7日(水)～3月25日(日)

4月1日(日)～4月18日(水)

伝統九谷焼工芸展 30年の精華

2月8日(木)～3月4日(日)前期

3月7日(水)～3月25日(日)後期

目次

天神画像と文房具	2	展覧会回顧（北陸の肖像画）	5
美術に見る文学の世界	2	ミュージアムレポート	5
高光一也 画業60年の軌跡	3	企画展示室、各地の展覧会	6
伝統九谷焼工芸展30年の精華	3	18年度開催の展覧会	7
コレクション展示室主な展示作品	4	3月の行事案内	7
企画展 Topic	4	所蔵品紹介、友の会会員募集	8

今月のコレクション展示室 (前田育徳会展示室)

特集

天神画像と文房具

3月7日(水)～3月25日(日)
4月1日(日)～4月18日(水)

今回の展示では数年ぶりに「重要文化財 荏柄天神縁起絵巻」を公開します。この作品はもと、鎌倉荏柄社に伝わったもので、奥書に元応元年(一三一九)の銘をもち、江戸時代に加賀の前田家の手に渡りました。今回は全三巻のうちの上・下巻の二巻を展示します。

絵巻の内容は、多くの北野天神縁起と同様で、学者菅原道真の異例の出世と活躍、さらに讒言による左遷と配所での無念の死という波乱万丈の生涯。次いで死後に起こった異変が、道真の怨霊によってのものであるという怨霊説話。そして北野社の草創と利生を語る寺社縁起からなるものです。

上巻では、当時一流の学者であった菅原是善の邸宅に突如、小児の道真が現れ是善の子になる「道真化現」(表紙)の場面に始まり、道真は出世するものの左遷されて大宰府に流される「配流海路」まで。

下巻では、天神となった道真の夢のお告げにより小祠を建てる「綾子託宣」に始まり、天神社の霊験・功德を語る「姉妹受福」までの場面を表す絵と詞書からなっています。

荏柄天神縁起絵巻の詞記は、古い系統の縁起に属するものと考えられる全三十六段で、内容は欠脱なくほぼ揃ったものです。また絵は、躍動感ある人物描写と生彩ある彩色が特徴で、正統な大和絵師の手になると考えられています。

展示ではほかに、後水尾天皇の賛の天神画像(本ページ左上)をはじめとする衣冠束帯姿の単独の天神画像のほか、配流の途中の港で、船の艦綱を敷いて座ったという伝承を表した綱敷(縄敷)天神画像。また、道服姿の道真を描いた渡唐天神像など各種天神画像もご覧いただけます。

また、明・清時代を中心とする硯、文鎮、水滴などの各種の文房具も併せてご覧いただけます。

美術作品に描かれる題材とは、自然の草花から風景、人物など様々ですが、それらは単に美しさを愛でるために選ばれるわけではありません。物語そのものが題材となったもの、あるいはその背景には、物語が隠されていることが多く、人々はそれらを読み解くことを楽しみました。本特集では、こうした美術作品の題材となった日本の物語や歌、中国の故事を紹介しながら、絵画と漆工作品をご覧いただきたいと思えます。だよりでは、今号と次号の二回に分けて本特集を紹介します。

日本の物語の中で、もっとも流布し絵画化されたものといえば、「源氏物語」です。その成立後間もない時期に、白河上皇が源氏絵を所望した(元永二年)と伝えられるように、宮中ではやられました。その人気は江戸時代に至るまで続き、様々な絵画や工芸作品の題材となったのです。

よく知られた国宝の「源氏物語絵巻」は、各帖の物語(詞書)と場面(絵画)を続けて絵巻に仕立てたものですが、江戸時代になると、屏風という大画面を用いて描かれた源氏絵が多つくられました。こうした源氏絵では、全体にたちこめる金雲の間に、源氏物語の主要な場面が描かれており、まるで空から覗き込むような感覚で、物語を見ることが出来ます。「源氏雲」とも称されたこのような金雲は、絵画に華やかさをもたらすだけでなく、場面と場面を区切る役割を果たしたのです。

本特集では一点の『源氏物語図屏風』と一点の『源氏物語図画帖』を紹介します。内一点は、江戸時代の奇才・岩佐又兵衛の画風・ふつくらとした下彫れの表情・に近い特徴を持つ珍しい屏風で、「胡蝶」「玉鬘」「絵合」「桐壺」「紅葉賀」「渡標」の六場面を描いたものです(写真)。

このほか、『時絵源氏物語図香盆』、『時絵夕顔図硯箱』など、源氏物語を題材にした漆工作品も紹介いたします。

(第2展示室)

特集

美術にみる文学の世界

3月7日(水)～3月25日(日)
4月1日(日)～4月18日(水)



源氏物語図屏風



雪人夫 昭38



鏡の前の裸婦 昭26

今月のコレクション展示室 (第4展示室)

特集

高光 一也 画業60年の軌跡

2月8日(木)～3月4日(日)

3月7日(水)～3月25日(日)

前回、高光氏の画業は昭和という時代と共にあり、時代の波との戦いであつたと書きました。一つのスタイルに安住することがなく、「えっ、これも高光先生の作品なの」と、そのチャレンジした様式の多様さに驚かされるのです。

変遷をざっと挙げますと、

一、習作時代―岸田劉生に倣つた県立工業学校時代を経て、師・中村研一に出会うまで。

二、戦前戦中―中村研一のたくましい画風に緻密な描写を加味し、写実的に農婦達の憩う姿を描く。文展で特選を得、新進作家として注目を浴びる時期。

三、戦後二十年代前半―緻密な描写はより洗練され、静謐な室内の女性像を描く。

四、二十年代後半―大胆な線描とタッチを見せる裸婦像が数多く描かれる。その形体と色彩には当時流行し出した抽象美術への対応が見られる。

五、三十年代―初の渡欧。色彩を減じ、白と黒を中心とし、人体は細部を切り捨てられていく。三十年代後半には目鼻口は省略され、単純化の極致を見せる。

六、四十年代―具象への復帰。黒を主体とした「黒の時代」を経て、華やかな女性像が描かれるようになる。芸術院会員となる時期。

七、五十年代以降―中近東、地中海の遺跡をバックに美しい女性をたたずませる。晩年の様式の確立。現代の美人画といえるのでは。画面は油絵具を艶消しに用いて岩絵具を思わせるような絵肌を見せる。表現内容・手法、共に油絵の和様化を確立した時期。

さて、いずれの時代の作品をお好みでしょうか。若い人には四と五の時代が、年配の方には二と三、そして七の時代に魅力を感じるのではなどと思ったりもしますが、どうでしょう。

なお、高光氏の代表作とその師中村研一、美大草創期に指導を受けた小糸源太郎、同時代の画家小磯良平と宮本三郎の作品を交えた特別展を四月二十二日から五月二十日にかけて開催いたします。

「伝統九谷焼工芸展」が今年三十回の節目を迎えることにちなんだ今回の特集ですが、後期は本館企画第7展示室でいよいよ「第三十回記念伝統九谷焼工芸展」が三月九日から開催されるのに合わせて、第5展示室の展示スペース全体を使用し、前期よりもさらに充実した内容となります。

後期の内容では是非注目していただきたいのは、前期の会員出品と参考出品に加えて、本館に収蔵された作品の中から、第五回から第二十九回の大賞、優秀賞など受賞作二十二点を精選して展示することです。

古九谷以来、九谷焼は常に挑戦的な姿勢によって形骸化の危機を乗り越えてきました。そうした精神が今日も連綿と受け継がれていることは、毎年、「伝統九谷焼工芸展」をとおして確認することができます。今回の特集では、特にそれぞれの作家がどのような技法の開発を行い、意匠、形体にどのような創意工夫を凝らしたかが大きな見所ということが出来ます。古九谷を常時展示している本館として、今回の特集が現代の作家の高い水準を再認識するのみならず、古九谷の新たな魅力を発見していただく契機となれば幸いです。

また今回、関連事業として石川県立伝統産業工芸館において、「第三十回記念九谷焼技術保存会展」も三月九日から五月六日の会期で開催されます。この展覧会は、九谷焼技術保存会が中心となつて同会の会員と物故会員の作品を精選したもので、本館の特集とは別の視点から「伝統九谷焼工芸展」の三十年の歩みを回顧することが出来ます。

本館企画展「第三十回記念伝統九谷焼工芸展」、そしてコレクション展の本特集「伝統九谷焼工芸展三十年の精華」と併せて、石川県立伝統産業工芸館の「第三十回記念九谷焼技術保存会展」をご鑑賞いただくことによって、本県九谷陶芸界の卓越した力量を感じていただけたらと思います。

(第5展示室)

特集

伝統九谷焼工芸展 30年の精華

2月8日(木)～3月4日(日)(前期)

3月7日(水)～3月25日(日)(後期)



爛漫 中憲

今月のコレクション展示室 主な展示作品

3月7日(水)～3月25日(日)

= 国宝 = 重要文化財 = 重要美術品
= 石川県指定文化財



灯台のある風景 硯伊之助



口笛 宮地寅彦

前田育徳会展示室

天神画像と文房具
荏柄天神縁起絵巻 上・下巻
天神画像 後水尾天皇賛
瑪瑙石硯

第2展示室

美術に見る文学の世界
源氏物語図屏風
源氏物語図屏風
嵯峨源氏物語図香盆

伝岩佐又兵衛

第1展示室

色絵雄香炉
色絵雌雄香炉

野々村仁清
野々村仁清

第3展示室

【油彩】
風船とピエロ
しおさい
熱叢夢
【彫刻】
口笛
木陰の女

鈴木秀博
中村三郎
宮本三郎
宮地寅彦
米林勝二

第4展示室

高光一也画業60年の軌跡
詳細は本文を参照下さい。

第5展示室

伝統九谷焼工芸展 30年の精華
釉裏金彩鉄線文大皿
赤絵壺「かざばな」
緑彩大皿

吉島武美
福田美統
松本佐一

第6展示室

【日本画】
転生
野牛
北国の春
【版画】
卯辰山春霞
灯台のある風景

梅田三省
坂田三男
中町進
大滝伊之助
硯伊之助

一般 350円	個	人	団体 (20名以上)
大学生 280円			
高校生以下は 無料			
一般 280円			
大学生 220円			
高校生以下は 無料			

企画室Topic

生誕100年 高光一也の画業 連載第1回 モダンの煌めき 4月22日～5月20日

昭和の始め、巨大なキャンパスに、瀟洒な都市生活の匂いを漂わせた女性像や群像がひとしきり描かれた時期がありました。そうした作品群をモダニズム絵画と呼んだりもします。フランス留学から帰った直後の中村研一の大作はまさにその代表例ですし、よりスマートでしゃれた存在としては小磯良平が、また石川の画家でいえば、『婦女三容』を描いた頃の宮本三郎を挙げる事が出来ます。

こうした時代に、高光氏は「憩う農婦たち」というテーマで、画壇に挑みます。しゃれた作品に馴染んだ画家の眼には、土臭いテーマを師の中村研一を彷彿とさせる剛毅なタッチで描く作風が新鮮に見えたのでしょう。昭和十二年の第一回新文展で「藁積む頃」が見事特選を得ました。これは初入選から特選までの当時のスピード記録と高光氏は述べています。その作品は広島病院に求められ、原爆によって消失してしまい見ることはできないのですが、姉妹作が今日残っています。たくましい線

描に細かに陰影が加味され、実に優美な画面です。

土臭くて優美というのは相反する気がしますが、ミレーやルソーなどのバルビゾン派が描く農民画を思い浮かべれば、納得いただけるのではないのでしょうか。

当時の金沢はモボやモガが闊歩し、近郊の粟ヶ崎遊園では少女歌劇団のレビューが盛んに開かれています。画家の制作がこうした時代相とは無関係ではありえません。農婦を選んだのは高光氏の戦略というべきで、戦後、抽象画全盛の頃には、色彩を限定し、人物を幾何形体に細部を省略して描かれたことを見ても、穏健とはほど遠い画家であったことは確かです。

そこで、今回の生誕100年展は、高光氏の画業を「モダンで時代に挑み続けた画家」という切り口でご覧いただこうと考えています。どうぞご期待下さい。



秋 II 昭12



聖セバスチアンの殉教 昭33

展覧会回顧 北陸の肖像画 11月16日～12月23日

今回の特別陳列は、第2展示室（古美術室）において、11月16日から12月23日までの、計38日間にわたり、石川県を中心に、福井・富山県そして新潟県に及ぶ北陸地方に伝えられた著名な肖像画、合計31点を展示するものでした。

展示の構成は、「中近世の武将像と女性像」「近世の俳人など」「肖像画を描く - 加賀藩御用絵師梅田家資料より - 」「中近世の頂相」の四つの柱でした。所蔵先から初めて出品される作品も目立つ展示となりました。

一般的に肖像画といえば、わが国であれば、天皇・皇族及び著名な貴族達。また將軍や功績のあった武将並びに藩主など。さらに人々から尊敬を集めた学者・文化人。また、生涯をかけて布教をすすめた高僧図などがまず思い浮かびますが、そのほかにも幼くして亡くなった子女の像や、早世した若い武将、さらに戦国時代から江戸時代にかけて功績のあった武将を陰ながら支えた妻の像などにも名品が少なくありません。今回の展示では、そのような作品を含めた肖像画のレパトリーの広さも感じていただけたものと思います。

今回展示した作品の多くは、寺院に伝わり供養のため

忌日などに祀られ故人を偲ぶためのものが多かったのですが、そのような像にはどうしても美化や象徴化、パターン化がみられる傾向があります。広く人物画に含まれる肖像画は、写実画の代表の一つでもあります。特に古いところの高僧図などのように、実際の人物を知らずに描いたものも少なくありません。

今回の展示の特徴は、像主の人物を前にして描いた、または像主の人柄なりが率直に表されたと思われる作品が多く見られたことといえましょう。特に、展示の下絵類からは、絵を描くにあたっての克明な描写や、一本の輪郭線に集約していく苦勞が感じられました。

最後に本展開催にあたり快く貴重な作品をご出品いただきましたご所蔵の皆様、関係各位に心から御礼申し上げます。また多くの皆様にご鑑賞賜りました。厚く御礼申し上げます。



ミュージアムレポート

体験☆しよう 「コレクション展示室で スケッチをしよう」 1月5日（金）

いつもは夏休みにあわせて開く体験講座ですが、この冬休みには「コレクション展示室でスケッチをしよう」を行いました。

コレクション展示室は従来簡単な鉛筆でのメモ程度のことは出来ましたが、このように作品の前でゆっくり絵を描くことはできませんでした。今回、冬休みで児童生徒が自由な時間が取れ、お客様には鑑賞に困らない時期に、鉛筆・色鉛筆に限定してスケッチを楽しみました。参加者は小学生と高校生。コレクション展示室の説明、作品を鑑賞してから、自分が描きたい作品を見つけ、スケッチを開始しました。小学低学年にはとても難しい形の彫刻や表現の絵画も、自分が納得するまで時間をかけて、みて、えがく。高校生も、いつもはさらりと流しみてしまう作品の細かなところまでゆっくり、みて、えがく。それぞれに好きな作品を好きな時間をかけて実物をゆっくりみて描く、とても楽しく充実した一日になりました。少しですが、当館HPでその様子を公開しておりますので興味のある方は是非ご覧下さい。



本年最初のギャラリー・トークでしたが、天候に恵まれて皆様にお出かけいただくことができました。「新春を寿ぐ」と題して、初釜の季節

でもありますので茶道美術を中心に、吉祥の意味を持つものや、季節感のあるものを取り合わせた作品をご覧頂きました。本展の主作品である野々村仁清の重文「梅花図平水指」を一例に、文様に込められた意味を紹介しました。「梅」を主題とした多くの作品が存在しますが、それは梅が単に美しいだけでなく、「松竹梅」や「四君子」が高潔さを意味することなど、作品は多くの情報を発信しているのですから、それをしっかりと受容することが、作品鑑賞の楽しさであることを再確認していただいたつもりなのですが・・・。逆に貴重な情報やご意見を頂きましたことに心より感謝申し上げます。

1月13日（土）

**ギャラリートーク
「新春を寿ぐ
古美術優品展」**

企画展示室

第4回金沢学院大学美術文化学部
卒業研究制作展

3月1日(木)～4日(日)(第7～9展示室)

美術工芸学科(日本画・洋画・陶芸・漆芸)・情報デザイン学科の卒業制作、美術文化専攻科修了制作、また文化財学科卒業研究報告を含めて、本学美術文化部学生の勉強成果を発表いたします。ご覧いただき忌憚のないご批評を下さいますようお願いいたします。

◇入場無料

◇連絡先 金沢市末町10 金沢学院大学美術文化学部
受付 秋山ゆかり
TEL 076-229-8775

第30回記念伝統九谷焼工芸展

3月9日(金)～24日(土)(第7展示室)

昭和51年に郷土が誇る九谷焼の技術保存と発展向上を図るため、九谷焼技術保存会が石川県無形文化財として指定されましたが、本展はその技術保存会の事業の一つとして毎年行われている公募展で、今回は30回目となる記念展です。入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のもとに展示します。

◇入場料 一般 350円 大学生280円
高校生以下は無料(団体は50円引)
当館友の会会員は、会員証の提示により
団体料金になります。

◇連絡先 能美市寺井町よ25番地 石川県九谷会館
TEL 0761-57-0125

各地の展覧会

開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

◆ロダン 創造の秘密
—白と黒の新しい世界—

2月4日(日)～3月25日(日)
静岡県立美術館
静岡市駿河区 TEL 054-263-5755

◆異邦人たちのパリ 1900 - 2005
ボンピドー・センター所蔵作品展

2月7日(水)～5月7日(月)
国立新美術館
東京都港区六本木 TEL 03-6812-9900

◆生誕100年記念 ダリ展

3月8日(木)～5月6日(日)
サントリーミュージアム天保山
大阪市港区 TEL 06-6577-0001

第29回一創会展金沢展

3月9日(金)～14日(水)(第8・9展示室)

新春、東京都美術館にて開催された本展の中から、基本作品、受賞作品及び石川県内作家の力作120点を選び、金沢での記念巡回展を開催いたします。

何者にも制約されない自由な作品群をご鑑賞下さい。

◇主な出品作家

横塚 繁 今村昭寛 真辺 啓 寺西武久 西山英二
増田真人 蓮井廣幸 梅沢曜光 虎井 修 松本陽子
谷口仙太郎 国友 博

◇入場料 一般500円 大高生400円 中学生以下無料
(団体は各100円引)
当館友の会会員は、会員証提示により
団体料金になります。

◇連絡先 小松市二ツ梨町ク・19・15 寺西 武久
TEL 0761-44-4235

'06玄土社書展<併催 孟法師碑銘整本復元>

3月17日(土)～19日(月)第8・9展示室

玄土社の1年間の活動を集約する'06玄土社書展のご案内です。「今」を表現する抽象作品47点と古典臨摹作品24点を展示いたします。

揺るぎないものとして存在する古典も、臨摹を通し視点をかえて見ることで新発見がある面白さ。また一方では揺れ動き進化していく抽象表現の愉しさ。どちらも私たちにとって欠くことのできないワークです。

古典と新しい書表現を理解していただける好機会です。ご来場をお待ちしています。

◇会期中の行事 「表立雲トークタイム」

日時・会場 3月18日(日)午後1時30分～
第8展示室

◇テーマ 「孟法師碑銘考 整本復元によって見えてくるもの」
実証的でわかりやすいお話です。

◇入場無料

◇連絡先 金沢市本多町1-7-15
玄土社主宰 表立雲 理事長 松村知春
TEL 076-263-0122

次回の当館展覧会

前田
展育
徳室
会特集
天神画像と文房具

4月1日(日)～4月18日(水)

第2
展
示
室特集
美術にみる文学の世界

4月1日(日)～4月18日(水)

展覧会回顧 平成18年度開催の展覧会(1)

今年度も当館では、一階の企画展示室や二階のコレクション展示室で数多くの展覧会が開催されました。

企画展示室では、当館主催の「広重・北斎・歌麿UKIYO絵展－眠りから覚めた秘蔵作品の初公開－」、「人間国宝誕生50年 漆芸界の巨匠 人間国宝松田権六の世界」、「－日本の自然・原風景を描く－郷土が生んだ日本画家 石川義展」や、「出光コレクションによる ルオー展」、「国宝誕生110周年記念 特別公開 国宝信貴山縁起絵巻」などの報道機関主催の企画展、また各種美術団体の公募展や巡回展というように、今後三月末までに開催予定のものを含めまして28回を数えます。コレクション展示室で行った特別陳列や特集は32回となり、1階と2階を合計すると60回という多くを数えます。それらの中からいくつかの展覧会を振り返ってみたいと思います。

「広重・北斎・歌麿UKIYO絵展－眠りから覚めた秘蔵作品の初公開－」は、故久世重勝氏が収集されご遺族から寄付された浮世絵の初公開展でした。この久世コレクションは、鈴木春信や鳥居派、勝川派などの初期の浮世絵から、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川豊国、歌川広重などの有名な浮世絵師の作品と、大正・昭和期の近代版画を含み、浮世絵版画は131作家・2796枚、近代版画は27作家・110枚を数えます。美人画、風俗画、風景画、役者絵、相撲絵、物語絵などのあらゆる分野を含み、個人コレクションとしては、膨大かつ貴重なコレクションです。本展では、『旅と風景』のテーマで、広重と北斎を、『江戸時代の人気者』で役者絵、相撲絵を、『浮世絵にみる江戸』では美人画、風俗画、開化絵などを展示し、浮世絵の魅力を紹介しました。広重の東海道五十三次は展覧会では多くても数十枚の展示がほとんどですが、本展では全55枚を展示しましたので、入館者からは初め

て全部を見ることができてよかったとの感想が寄せられました。数が少ない上方の浮世絵師の作品も展示しましたので、専門家の来場もいただきました。また第3展示室では同時期に、近代版画の特集展示を開催しましたので、両会場をご覧いただき、浮世絵との違い、類似点、浮世絵からの変遷・展開などをご理解いただけたことと思います。今後も作者別、分野別、テーマ別等の特集展示で紹介してまいります。

「出光コレクションによる ルオー展」は、世界屈指の質と量を誇る出光美術館所蔵作品の中から、ルオーの個性を味わうことができる油彩画と版画の傑作を中心に200点余りの展示でした。ルオーの画業の中でも重要な位置を占める連作油彩画『受難』や連作版画『ミセレーレ』等の精神性の高い作品群により、作品にこめられたルオーの真摯な思いを感じ取っていただけたと思います。会期中多数の入場者でにぎわいました。

「国宝誕生110周年記念 特別公開 国宝信貴山縁起絵巻」は、信貴山総本山朝護孫子寺と奈良国立博物館のご協力により、史上初めて国宝『信貴山縁起絵巻』全3巻を、同時に、巻頭から巻末まで通して展示し、その全貌をご覧いただくという特別公開で、多数の入場者でにぎわいました。鑑賞の手引きとして写真パネル、解説パネルを多く壁面に貼ったり、入場者の分散も兼ねて別室でビデオ上映を行うなどいろいろ工夫をいたしました。鑑賞の特異性から鑑賞時間がかかり、入場制限、長時間の待ち時間などご迷惑をおかけしまして申し訳ありませんでした。



UKIYO絵展 会場

3月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
3/3(土)	美術講座	映像の歩み(4) (西田孝司学芸専門員)	講義室
3/4(日)	月例映画会	萩焼 十一代三輪休雪の鬼萩 (37分) 鍛金 奥山峰石のわざ(30分)	ホール
3/10(土)	ギャラリートーク	生誕100年 高光一也 画業60年の軌跡 (二木伸一郎学芸専門員)	第4展示室
3/11(日)	ビデオ鑑賞会	東大寺 行事篇 春を招くお水取り (29分) 東大寺 美術篇 東大寺のすくれた美 (29分)	ホール
3/17(土)	美術講座	街角の彫刻 (宮 衛学芸第2課長)	講義室
3/18(日)	ビデオ鑑賞会	東大寺 美術篇 東大寺のすくれた美 (29分) 東大寺 歴史篇 東大寺その歩み (30分)	ホール



あおてしょうちくばいもんひらばち

青手松竹梅文平鉢 古九谷

江戸 17世紀

口径35.6 底径15.0 高9.2



円形に配された枝から、まりのような形の松の葉がこぼれ落ちんばかりに描かれています。常緑樹として、四季を通してその緑の姿を変えず、過酷な自然の中であつても風雪に耐え、毅然とそびえ立つ松に対して、私たち日本人は、古くから愛着を持って接してきました。

生き生きとした松葉と同様に鋭く尖った竹の葉もまた、厚く緑の絵具が施されており、力強さが伝わってきます。松と同じく竹や梅も寒さに耐えることから、「歳寒の三友」とも呼ばれ、三つがそろって吉祥の象徴ともされてきました。

残る一つの梅花は地紋として器面全体に配されて、松と竹とを引き立たせる効果をあげています。紫・緑・黄色の三彩のみで塗埋めた平鉢ですが、おめでたい意匠から華やかさを感じさせる仕上がりとなっています。

裏面は文様がいつさい施されておらず、周辺と高台の内側の一部が緑に彩られています。その筆あとが荒々しく、濃淡がはつきりしており素朴な印象を受けます。

半磁胎の素地で、高台が比較的小さく、口紅や染付、目跡がないことから古九谷の編年のうちではもっとも初期に位置づけられる作品の一つと考えられます。

3月1日(木)より受け付け開始 新年度友の会会員募集!!

- ◎募集定員 1,500名
- ◎会費 2,000円
- ◎受付場所 図書閲覧室
- ◎受付期間 3月1日より開始し、募集定員に達し次第締め切る。
- ◎受付時間 休館日を除く午前9時30分～午後5時
3月5日(月)・6日(火)・26日(月)～31日(土)は展示替えによる休館日ですのでご注意ください。

◎郵便でのお申し込みについて

ご希望の方は郵便振替をご利用下さい。
詳細は『美術館だより』第280号をご覧ください。
会員証は『美術館だより』と一緒に、3月末頃からお送り致します。

郵便振替口座 00700-7-46490
加入者名 石川県立美術館友の会

会員の特典

- ★当館コレクション展に何度でも無料で入場。
- ★当館企画展入場券(1枚)の配布
- ★当館主催展覧会入場料の割引(同伴者2名まで)
- ★当館主催諸行事への参加
- ★『石川県立美術館だより』を毎月郵送

お問い合わせは当館普及課友の会係まで TEL(076)231-7580

先月の募集記事に郵便振替の手数料を70円と記載しておりましたが、100円の誤りです。既にお振込みいただいた方には、大変ご迷惑をおかけいたしました。



見本

平成18年度
石川県立美術館友の会 会員証

新年度会員証(見本)
友禅訪問着「金鶏」
(部分)木村雨山

休館日:3月5日(月)・6日(火)
3月26日(月)～31日(土)

石川県立美術館だより 第281号

2007年3月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>